

コベルコが見出す 循環ビジネス 次代の旗手たち

▶▶35

秋田県で産業廃棄物の処理や土木工事などを手掛けるユナイテッド計画は現在、新会社「ユナイテッドリニューアブルエナジー」を通じて、東北地方最大級となる最大出力2万キロワットの木質バイオマス事業の開始準備を進めている。3月中には施設が完成し、7月から本格運転を開始する計画だ。燃料には地元の未利用木材を約7割、残り約3割をPKS (Palm Kernel Shell) で賄う計画。地元の林業者と連携することで地域の間伐材を安定的に確保する体制を構築するとともに、地元林業の活性化につなげていく考えだ。「知恵をしぼり最善を尽くせ。それは常に可能である」を経営理念に掲げる平野久貴社長は、常に新たな試みに挑戦することを身上としている。(黒石修)

現在秋田市向浜に循環
流動床ボイラーを採用し
た最大出力2万キロワットの木
質バイオマス発電所を建
設中。事業を行うユナイ
テッドリニューアブルエ
ナジーにはユナイテッド
計画のほか、くろくまア
セットマネジメント、レ
ノバ、グリーンファイナ
ンス推進機構が出資して
おり、資本金は20億円と
なっている。融資は地元
金融機関を中心に75億
円、秋田県のおおさと融
資(無利子融資) 31億円
が実施される。総事業費
は17.5億円。
木質バイオマス発電事
業はバイオマス燃料の調

ユナイテッド計画(秋田県)



平野久貴社長

平野社長は、「チップの確保という面では、当面は秋田県内に7カ所程度のチップ工場を設け

達量安定的に確保する
ことが事業のキとなる
が、同事業では地元の林
産量を安定的に確保する
て、そこから受け入れて
いく。すでに発電所への
チップの搬入も始まって
おり、各チップ工場では
原木を確保している。こ
の地域にはセイホクグル
ープ様や日本製紙様の工
場があり、新たにできる
バイオマス発電所と合わ

常に新たな試みに挑戦

2万キロワットのバイオマス発電実施

地域の林業活性化にも貢献

チップ工場が数カ所に
設置されることで物流も
発生する。「バイオマス
発電所が24〜25人程度
の新たな雇用が生まれる
が、それに加えて素材の
確保、チップ工場の作
業、物流など合わせて1
業として1965年に平
野産業を設立したのに始
まる。その後82年には法
人化により平野建設を設
立。舗装工事や土木工事
などに取り組んできた
が、公共工事が減少して
きたことから86年に環境
部門を設置して廃棄物処
理業に参入。同年に安定
型処分場、88年に中間処

発生する。「バイオマス
発電所が24〜25人程度
の新たな雇用が生まれる
が、それに加えて素材の
確保、チップ工場の作
業、物流など合わせて1
業として1965年に平
野産業を設立したのに始
まる。その後82年には法
人化により平野建設を設
立。舗装工事や土木工事
などに取り組んできた
が、公共工事が減少して
きたことから86年に環境
部門を設置して廃棄物処
理業に参入。同年に安定
型処分場、88年に中間処



新会社「ユナイテッドリニューアブルエナジー」
でバイオマス発電施設を建設中(1月末撮影)



燃料には地元
の未利用木材
を7割使用す
る計画だ

201500程度
の新規の雇用が生
まれる。これは地
域振興につながる
事業であり、その
期待の表れとして
県から無利子のふ
るさと融資を受け
ることもできた」
とする。
ユナイテッド計
画は前代の創業者
が建設資材の運送
生可能エネルギー固定価
格買取制度(FIT)が
スタートしたのを受け、
これまでのノウハウを活
用して本格的に発電事業
に参入する検討を開始し
たという。事業実施に
当たってはドイツなど諸
外国の事例等についても
視察や調査を行った。
建設業から廃棄物処理
業、廃棄物処理では管理
型処分場、ダイオキシン
対策の焼却炉、大型焼却
溶融施設と業容を拡大。
「さまざまな業務を展開
して行こうという想いか
ら、『結ぶ』、『団結』と
いう意味を持つ『ユナイ
テッド』を社名に付け
た」ということだ。すで
に将来に向けて新たな事
業展開も模索しているこ
ろだ。社員教育で重視し
ているのは「常に意欲を
持つ事」、最終目標は
「自分の人格を形成する
こと」だ。好きな言葉は
「桃李もの言わざれども
下自ら蹊を成す」。「徳の
ある人には自然に人が集
まる。魅力があれば困
た時には周りの人が助け
てくれる。社員皆にそう
した人になってほしい」
と願う。将来的には秋田
の処理業者で初の株式上
場も目指していきたい考
えだ。

(このコーナーは「コベルコ」
建機の提供で、月1回
の連載でお送りします)